

29.だが万有の主、アッラーの御望・がない限り、あなたがたはこれを望むことも出来ないのである。

SURA 82.裂ける章〔アル・インフィタール〕

慈悲あまねく慈愛深きアッラーの御名において。

- 1.天が、微塵に裂ける時、
- 2.諸星が散らされる時、
- 3.諸大洋が(溢?)れ出される時、
- 4.墓場があばかれる時、
- 5.それぞれの魂は、既にしたことと、後に残したことを知る。
- 6.人間よ、何があなたを恵・深い主から惑わせ（背かせ）たのか。
- 7.かれはあなたを創造し、形を与え、（均整のとれた体に）整え、
- 8.かれの御心の儘に、形態をあなたに与えられた御方である。
- 9.いや、あなたがたは審判を嘘であると言う。
- 10.本当にあなたがたの上には2人の看守（天使）がいるが、
- 11.かれらは気高い記録者で、
- 12.あなたがたの所行を知っている。
- 13.敬虔な者は、必ず至福の中にいる。
- 14.罪ある者は、きっと火の中において、
- 15.審判の日、かれらはそこで焼かれ、
- 16.そこから、逃れられない。
- 17.審判の日が何であるかを、あなたに理解させるものは何か。
- 18.一体審判の日が何であるのかを、あなたに理解させるものは何か。
- 19.その日、どの魂も外の魂のために（役立つ）何の力も持たない。命令は、その日アッラーのもの。

SURA 83.量を減らす者章〔アル・ムタッフイフイーン〕

慈悲あまねく慈愛深きアッラーの御名において。

- 1.災いなるかな、量を減らす者こそは。
- 2.かれらは人から計って受け取る時は、十分に取り、

3. (相手にわたす) 量や重さを計るときは、少なく計量する者たちである。
4. これらの者は、甦ることを考えないのか、
5. 偉大なる日に。
6. その日、(凡ての) 人間は、万有の主の御前に立つのではないか。
7. 断じていけない。罰ある者の記録は、スイツジーンの中に(保管して) ある。
8. スイツジーンが何であるかを、あなたに理解させるものは何か。
9. (そこには完全に) 書かれた一つの記録(がある)。
10. 災いなるかな、その日、嘘であると言って来た者たちよ、
11. 審判の日を、嘘であると言って来た者たちこそは。
12. これを嘘であると言って来た者は、反逆者、罪人に外ならない。
13. わが印が、かれらに読誦された時、かれらは、「昔の物語だ。」と言った。
14. 断じてそうではない。思うにかれらの行った(悪)事が、その心の(鑄?)となったのである。
15. いや、本当にかれらは、その日、主(の御光)から締め出される。
16. 次にかれらは、地獄できっと焼かれよう。
17. そこで、かれらに、「これが、あなたがたが嘘であると言ってきたことである。」と告げられるであろう。
18. これに引き替え敬虔な者の記録は、イッリッイーンの中に(保管して) ある。
19. イッリッイーンが何であるかを、あなたに理解させるものは何か。
20. (そこには完全に) 書かれた一つの記録(があり)、
21. (主の) 側近者たちが、それを立証する。
22. 本当に敬虔な者は、必ず至福の中におり、
23. かれらは寢床に寄って、見渡すであろう。
24. あなたはかれらの顔に至福の輝きを認めよう。
25. かれらは、封印された純良な酒を注がれる。
26. その封印はジャコウである。これを求め熱望する者に熱望させなさい。
27. それにはタスニームが混ぜられよう。
28. (アッラーに) 近い者たち(善行者)は、その泉から飲もう。
29. 本当に罪ある者たちは、信仰する者を嘲笑っていた。

- 30.そしてかれら（信者）の傍を過ぎると、栗いに（嘲笑して）目くばせし、
- 31.家族の許へ帰る時、笑い草にしたものである。
- 32.かれらのかれら（信者）を見かけると、「本当にこれらの者は迷っています。」と言う。
- 33.だがかれらは、かれら（信者）の監視者として遣わされた者ではない。
- 34.だがこの日は、信仰する者が不信者たちを笑い、
- 35.かれらは寢床に寄って、見渡すであろう。
- 36.不信者たちは、その行いの報いを受けたであろうかと。

SURA 84.割れる章〔アル・インシカーク〕

慈悲あまねく慈愛深きアッラーの御名において。

- 1.天が裂け割れて、
- 2.その主（の命）を聞き、従う時、
- 3.大地が延べ広げられ、
- 4.その中のものを吐き出して空になり、
- 5.その主（の御命令）を聞き、従う時。
- 6.おお人間よ、本当にあなたは、主の御許へと労苦して努力する者。かれに会うことになるのである。
- 7.その時右手にその書冊を渡される者に就いては、
- 8.かれの計算は直ぐ容易に精算され、
- 9.かれらは喜んで、自分の人々の許に帰るであろう。
- 10.だが背後に書冊を渡される者に就いては、
- 11.直に死を求めて叫ぶのだが、
- 12.燃える炎で焼かれよう。
- 13.本当にかれは、自分の人々の中で歡樂していた。
- 14.かれは、本当に（主の許に）帰ることなどないであろうと思っていた。
- 15.いや、主はいつもかれを見通しておられる。
- 16.わたしは、落日の夕映えによって誓う。
- 17.夜と、それに帰り集うものにおいて、
- 18.また満ちたる月にかけて（誓う）。